



発行・京都障害者スポーツ振興会
題字 芝田 徳造

京都障害者スポーツ振興会設立 40周年記念シンポジウム

「40年の歩みを踏まえ、障害者スポーツの今と未来を創造する」(2)

会場から

「つどい」について

水谷裕氏
地域のつどいは、運営面や種目で地元の事情に合わせたり方を考えます。北部や乙訓では各市町の持ち回りでやっています。派遣が少なく、会場スタッフの割合が少なく、地域の迷惑を掛けておらず、各部の活動に固執せず協力する必要があります。また残念ながら「教えに行つたんでねえ」というような「だーもおり、体制の改善を考えています。」

井川善博氏

井川善博氏
育館が会館してから、筒井忠彦さんと二人で城陽のつどいを始めました。9年9月30日。徐々に普及して昨年3月0に運動し、長く来てもらえなくて感慨深いです。障害を問わず、みんな出てくる種目を必ず一回入念で考えています。ボラ

ティアの定着が進まず、支援体制づくりが課題です。

森津常春氏

森津常春氏
中書島のプールで水泳教室と並行して、水泳のつどいを始めました。一般の利用者と共用ですが、理解を受けてきています。一般の利用からスタートの中心になつていて、タツフの泳げる人は技術を高めます。泳げる人は技術を出る種目も取り入れられます。最近では水泳マラソンや25メートル記録会に取り組み、上手くなつたことと肌を感じられるようにしています。

岩谷礼子氏

岩谷礼子氏
つどいの参加者の方やヘルパーさんに、スタッフの岩谷さんなんや、というふうな思つてもらえるのがすごく嬉しんです。トランポリンを長く担当しています。トランポリンだけじゃなく、トランポリンを見たい毎月つどいに寄せてもらっています。

伊崎正史氏

伊崎正史氏
つどいの参加者から知らん間にスタッフになり、参加者

から名前も覚えてもらえようになり、だんだん自分でも楽しんで毎月一回行つています。

稲垣淳央

稲垣淳央
水泳のつどいは体育館のつどいと違い、肩肘張らずに参加できます。地味ですが、一人一人よく顔が見え、友達のような感じで、参加者の方とつどい泳ぐことができて、非常に近い距離で関わるといふ良さがありません。

卓球バレーについて

片山美代子氏

片山美代子氏
卓球バレーは最初は筋ジストロフィー症児の近畿大会で行つていたもので、重度の障害のある人がやれる競技です。鳴滝養護学校で部活を作つて、つどいで卓球バレーを行うと、喜んで行くようになり、やがてそれが京都に広がり、京都の全スポーツで公開競技となり、チーム数も大幅に増え、ポランティアらの高齢化・減少への対応が課題です。

長谷川尚三氏

長谷川尚三氏
卓球バレーの歌のCDの購入をお願いします。

シンク口について

森田美千代氏

森田美千代氏
中書島の水泳教室から始まったシンク口も、フェスティバルが二十回目を迎えました。みんなやること、シンク口をやる人もボランティアも主役というのを大事にして来ました。泳げるようになってからシンク口でなく、シンク口

口を楽しむながら泳げるようになることも目指します。スポーツ、文化としてのシンク口を目指して頑張っています。

山副スヘノ氏

山副スヘノ氏
養護学校で体育を教えたのがきっかけで振興会に関わりはじめ、今はシンク口のボランティアです。ボランティアは割に合わないと思いつつ、やっぱり好きなのかなと思いません。

全国車いす駅伝について

金子知拓氏

金子知拓氏
もともと昭和57年に綾部市で全京都車いす駅伝を開催しました。全京都大会の公開競技として京都のチームが優勝し、これを記念して翌年から全大会とし、事務局体制も整えて継続開催してきています。22年間、京都のチームは三回優勝しております。

坂野晴男氏

坂野晴男氏
当初公開競技ではバスケットの選手で臨んで優勝しました。六回大会で優勝しました。強化には時間がかかりましたが、世界大会に出る選手が必要で、寒川くんや西原くんが来てくれました。課題として、来年の大会に向けて組んでいきます。

まとめ

川端一彰氏

川端一彰氏
スポーツ振興会は振興が大事です。障害を持つ仲間がた

ちに対してスポーツを広めていく姿勢が必要で、参加者の固定・減少に対し、新しい広め方を模索したり、地道な足で稼ぐことも必要です。まずは実行に移していくことです。まだやることはいっぱいあります。

行事予定	12月	13(火)	丹波障害者のスポーツのつどい	丹波自然運動公園	来月のつどいは 1 / 8 第2日曜日
		18(日)	237回障害者水泳のつどい	伏見港公園プール	
			城陽障害者スポーツのつどい	サン・アビリティーズ城陽	
京都障害者スポーツ振興会ホームページ TEL/FAX075-712-7010 http://web.kyoto-inet.or.jp/people/spo-shin/ (2011年11月27日に一部更新)					
京都府障害者スポーツ指導者研修会 12月17、1月7、8(1月8日(日)以外は土曜日) 京都市障害者スポーツセンターにて					

スポ振ルネサンス (44)

「心でつなぐ活動を」

京都障害者スポーツ振興会

副会長 水谷 裕

スポ振ルネサンス(27)、(34)、(37)に続き、スポ振ルネサンス(40)において、平成24年3月11日に新たに実施される「京都マラソン」の車いす競技の部についての苦言や、現状経過を書いてきました。

前回のスポ振ルネサンス(40)においては、コース設定について今後の課題として残す旨を告げられたことに対して、今後、協議を重ねていくことと確認をするともに、以前、行われていた「京都シティハーフマラソン」の時、5キロという距離を伸ばして欲しいと毎回言い続け、変わらぬまま16回で大会が終わってしまったこともあって、素直に受け取れないことも事実であり、「第2回京都マラソン」に向けて実行委員会としての共通認識にすべく第2回実行委員会の席上において、車いす競技のコースに係るこれまでの振興会との協議経過を報告してもらうことについても確

認したにもかかわらず、7月12日の国際会館で開かれた第2回実行委員会では、実行委員会の席上において、車いす競技のコースに係るこれまでの振興会との協議経過を報告してもらうという約束を守ってもらえず、実行委員会の後、苦言を呈すると、「すみません」と「次回実行委員会には…」の言葉だけで、後は、なしのついでだったので、実行委員会事務局は、団体との約束をどう思っているのでしょうか？京都障害者スポーツ振興会は、そんなに軽い存在なのでしょうか？と、憤慨していることを皆さんにご報告しました。

今回は、その後の動きについて書きたいと思えます。

この後、やっと、11月中旬頃になって、実行委員会事務局から車いす競技の部の協議、打ち合わせがしたいとの申し入れがあり、11月25日に私と飯田理事長、金子事務局長とで新任の部長さん他5名の方と会いました。

その中では、最新の進捗状況などの状況説明を受けながら、車いす競技の部が現時点の枠内でベストな環境で運営されるよう

に話し合いましたが、双方の考え方に依然として若干の相違がみられたので、双方で検討し、継続して事務局レベルで詰めていくこととしました。これらのご事情については、12月8日に事務局レベルで話し合いが持たれて、歩み寄りがあり、好ましい方向に進みつつあります。

また、実行委員会の席上において、車いす競技のコースに係るこれまでの振興会との協議経過を報告してもらおうという約束を守ってもらえず、京都障害者スポーツ振興会として憤慨していることについても、実行委員会事務局としても十分認識しており、第3回実行委員会では、車いす競技のコースに係るこれまでの協議経過を報告してもらうことも再確認をして、この日の話し合いを終えました。

そして、12月9日(金)、京都市役所本館において開かれた第3回実行委員会では、運営、応援大使、交通関連対策や今後のスケジュールなどが報告され、了承されました。

その中で、同時に、懸念であった実行委員会の席上において、車いす競技の

コースに係るこれまでの振興会との協議経過として、望んでおり、「第2回京都マラソン」に向けて検討課題としていくことも報告してもらいましたが、私も発言の機会を求め、実行委員会委員としての共通認識にしていたただきたいとお願いをしました。きつと理解していただけたものと信じています。

実行委員会のあった12月9日は、「障害者の日」。この日に共通認識として理解していただけたのも、何かの縁というべきでしょうか？

いつも書いているとおり、京都障害者スポーツ振興会は、障害のある人々のスポーツ活動を支援し、振興をする《運動体》としての立場から、方向は明確で、これから、障害のある人々の立場から、「第2回京都マラソン」に向けてコース設定の再考を強く求めて行かなければならないのです。



第34回府民総体種目別交流大会卓球バレー競技結果

平成23年10月16日
京都障害者教養文化・体育会館
参加27チーム

各ブロック1位

- 虹の会(右京区)
- 中京区B(中京区)
- スバル(舞鶴市)
- ピンポンパンクラブ(右京区)
- 八幡(八幡市)
- がんばろう会(福知山市)
- 京田辺(京田辺市)
- やまぶき(宇治市)
- 西陣工房(北区)

決勝トーナメント

- 第1位 京田辺(京田辺市)
- 第2位 中京区B(中京区)
- 第3位 八幡(八幡市)

第22回全京都車いすハンドボール大会結果

平成23年11月27日
京都市障害者
スポーツセンター
参加11チーム
優勝 福知山BMW